

# 災害被災地の現状、 続く支援の輪

大きな被害をもたらした東日本大震災から7年目、4月には熊本地震から3年目を迎えます。その被害は老人クラブ活動にも大きな影響を与えました。特に福島県では、原発による避難地域が指定されて、住民が集団で移動する事態も発生したのです。

ここでは、福島県避難地域の現在の状況、熊本県内の非被災地が被災地を支援する活動を中心にお伝えします。また、現在でも継続している支援活動の一端もお知らせします。

## 震災被災地はいま

### 2011・3・11東日本大震災

●福島県における原発避難指示区域の現状  
原発避難指示区域は、1月10日現在、次の状況にあります。

・避難指示解除準備区域に一部指定されたが、全町戻れていない：双葉町、大熊町

・一部地域で解除された：浪江町  
・多くの地域で解除された：南相馬市、富岡町、川俣町、飯館村、葛尾村  
・全域が解除された：田村市、広野町、楡葉町、川内村

### ●福島県における被災老連・クラブの状況

福島県老連では、原発被災老連を直接訪問して現状や今後の組織運営及び活動の進め方について会長や事務担当者や協議、運営面のサポートをしています。避難指示区域の解除は進んでいます。避難指示区域の解除がまだ十分整わないため住民の帰還率が低い地域が多いのが現状です。また、帰還した住民の多くが65歳以上の高齢者であり、今後はクラブの再編成や新しい会員の確保が原発被災老連に共通する大きな課題です。

今年度も1月11日から19日まで各老連事務局を訪ねて活動状況、要望や抱える悩みなどについて懇談しました。今回の訪問から二つ

の老連の活動を紹介します。はじめに全町民が避難して県内外で生活を送る大熊町では、行政区単位のクラブ活動が困難な状況が続いています。そこで町老連では、会員同士の絆を深めるため4年前から暑中見舞いはがきをを送る活動をしています。暑中見舞いはがきは、単位クラブ会長が手分けして遠く離れている全会員に励ましの便りとして送り、たいへん喜ばれています。さらに平成28年度からは町老連の会報を作成、県老連会報紙「元輝新報」と一緒に全会員に送付しています。町老連会報には、1年間の老連活動コーナーやこれからの事業実施計画、単位クラブ会長名簿等を掲載、多くの会員がこれからの活動に参加しやすいように会員同士のつながりを深める活動に継続して取り組んでいます。



みんなで福笑い(福島県)

西原村老連へ荒尾市老連が訪問(熊本県)



業」を行っています。この事業は高齢者が寺子屋の先生となって子どもたちを指導して交流を深めるものです。交流する内容はこま回し、お手玉、けん玉、糸引きとんぼ、めんこや福笑い等の昔遊びや地域に伝わる伝統行事の団子さしなどで、年3回行いました。原発による避難生活が長く続いたため、村内に暮らす子どもが少なくなっていますが、参加した子どもたちは経験したことのない行事を会員と共に楽しみ、笑顔と笑い声の絶えないひと時を過ごしました。

### 2016・4・16熊本地震

### ●熊本県における被災地支援の状況

熊本県老連では、被災29市町村老連を支援するために、非被災22市町村老連※を割り当てたサポート活動に取り組んでいます。その一環として、被災した西原村老連を荒尾市老連が訪問交流した活動を紹介します。

※内7市町村老連は、被災状況が軽微であるため非被災老連扱い

昨年10月、西原村福祉センターへ荒尾市老連から35名が訪れ、村老連23名との交流会を行いました。最初の村老連会長からの挨拶では、「会員を含む多くの村民が仮設住宅等で不便な避難生活を続けている。今後ともクラブ活動を活性化し、復興に力を注いでいきたい」と伝えられました。荒尾市老連会長の見舞いの言葉の後、被災地に笑いを届けるボランティアによるユーモアを交えた講演があり、会場には笑いがあふれました。

意見交換では「日頃の防災意識の醸成とコミュニケーションづくりが功を奏して、全壊家屋で生き埋めになった家族全員を救出できた」という、当事者ならではの感動的な話も披露されました。最後に復興ソング「花は咲く」を全員で合唱して終了となりました。

この他、益城町老連を球磨郡老連が、南阿蘇村老連を人吉市老連が訪ねた交流も報告されています。

## 続く支援活動

・兵庫県 県老連若手委員会が中心になり農園活動を行い、毎年福島県大熊町・楡葉町老連へは玉ねぎ支援、他に丹波黒豆、さつまいもやみかんなどを販売して、収益を支援活動実施に充てている。また研修会や大

会などにおけるチャリティバザーの開催や、切手やはがき収集により収益をあげて支援につなげている。



玉ねぎの収穫(兵庫県)

・北海道 平成23年から毎年、被災した福島県川内村の小学生を招いた「士別にコラッセ夏学校」では、3泊4日のうち1晩を士別市老連と交流している。昨29年の「川内つ子と士別のじいちゃん・ばあちゃんとの交流会」参加者は34名、内訳は小学



ゲームで交流(北海道)